

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000081		
法人名	三菱電機ライフサービス(株)		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム「今里」		
所在地	京都府長岡京市今里畔町21-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月 17日	評価結果市町村受理日	令和3年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2693000081-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2693000081-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会		
所在地	京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	令和 3年 3月 3日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族と直接会って頂く事が困難となっている事から、はがきやお手紙のやり取りに加えて、ビデオ電話ができることを案内して、希望される方はお顔を見てお話しができる環境を作ることができている。  
 ・利用者が笑顔で過ごせるように、日常的にその方にあったレクリエーションや散歩などを取り入れて、その方らしい暮らしができるような工夫を重ねている。  
 ・誰もが自分の思いが話せるような関りを大切にして、小さな課題も改善できるように話し合う時間を持つ事を意識している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、住宅街の中にある2階建て、2ユニットのグループホームです。日々の生活の中でみんなでワイワイと作りながら楽しく食事をするのが理念の実践につながると考えて焼肉パーティーやおやつレクするなど様々な工夫をしています。また、レク委員会で利用者の楽しみができればいいなという職員の雑談の中から2階のフロアを喫茶店風にする事が実現して1階と2階のユニット間で交流しています。コロナ禍後には地域の方や利用者の友人、法人内の他事業所との交流の場になることが期待されます。設立時にどんなグループホームにしたいかを職員で話し合って策定した理念「笑顔あふれる暮らしを共に」「地域や社会との関わりを大切に」の実践に取り組んでいる事業所です。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日朝礼で唱和することで浸透しつつある。 ・日々の生活を支えるにあたり、その時、その一瞬に、その方の想いを受け止めた関わりを持つ事が、この「笑顔あふれる暮らしを共に」という理念の中の深い意味である事を、事例をもとに伝えることができた。	設立時にどんなグループホームにしたいかを職員で話し合っって策定した理念「笑顔あふれる暮らしを共に」「地域や社会との関わりを大切に」。その深い意味を知る事例として、突然の容体悪化により亡くなった利用者に対応した職員の動揺に対して、日々心を尽くしてきたケア、いつも笑顔で対応したことで良い関係性を保っていたことなどを職員全員で話し合った。実践や経験を共有することでケアについて意見の統一を図ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎週自ホーム前に移動スーパーが来る時に、ご近所の方が来られることがあり、交流が広がりがつつある。 ・今の時期こそ控えているが、幼稚園と交流は継続している。	コロナ禍となる前は、乙訓マルシェへの参加や事業所内でのイベントに地域の方が家族連れで参加されるなど、交流が広がりがつつあったが、コロナの影響で自粛している状況である。自治会、町内会等に加入はしていない。地域との交流は課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・昨年より前の駐車場にて毎週水曜日に移動スーパーが来ることで、地域の方のお買い物役に立てる取り組みを継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域住民の方より様々な視点から意見を頂く事で、新たな気づきや課題がみえる事も多くあり、サービスの向上に活かされている。	運営推進会議には、家族代表や行政、地域包括支援センターの出席があり、地域からは民生委員が出席して事業所の現状や活動の報告がされている。身体拘束等の適正化のための検討会を兼ねていることもあり、活発な意見交換の場となっている。家族の代表は、1階ユニットと2階ユニットで交代で出席してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・今年度の運営推進会議は、密を避けながら実施させて頂いたり書面にて開催することで、行政等と情報共有ができています。 ・乙訓グループホーム連絡会に関しては、集まるための会議は行われてはいませんが、FAXで感染予防対策など情報を共有して連携を図っている。	運営推進会議に行政の担当者、地域包括支援センターが参加していることから情報交換や共有ができています。乙訓グループホーム連絡会(大山崎町、向日市、長岡京市の地域包括)に参加し、移動スーパーの来訪も運営推進会議から得た情報で実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は「身体拘束虐待予防指針」及び「身体拘束 虐待マニュアル」の研修を受けることで、周知徹底している。</li> <li>・身体拘束の適正化のための会議を行い、職員も議事録を回覧することで周知できている。</li> </ul>	<p>運営推進会議が「身体拘束等の適正化のための検討会」を兼ねており、事例の検討や意見交換し、会議録を職員に回覧している。日々の業務で気になることがあれば管理者がタイミングをみて職員に状況を確認し、アドバイスをし、ユニット会議等で共有している。家族から安全のための拘束の依頼があった場合は話し合い、弊害があることについてや事業所が取組む工夫についてなどを説明している。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は外部の虐待防止の研修に参加して、ユニット会議での内部研修で共有できている。</li> <li>・日々のケアの中で身体の状態確認を行い、ヒヤリハットを活用し、職員で原因を話しあい、再発防止に努めている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修に参加することで理解を深めている。</li> <li>・各フロアに後見人制度を利用している入居者がいる。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に記述内容の説明を具体的に行っている。</li> <li>・質問やわかりにくい様子がある時には、事例などを伝えることで理解が頂けている。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議には、1年交代でお願いしている家族代表に出席頂き、家族の立場からの率直な意見を議題にすることもある。</li> <li>・会議の内容を広報誌に掲載している。</li> <li>・玄関に意見箱を設置しており、いつでも気軽に意見を頂けるようにしている。</li> </ul>	<p>コロナ禍となる前は、家族の面会時に意見等を聞き取る機会として大切にしていたが、コロナ禍においては、電話で聞き取るようにしている。必要に応じて個別カンファレンスを実施することもある。本人には、フロア等でさりげなく話して聞き取っている。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニット会議・リーダー会議・職場懇談会と職員が意見を話せる場があり、管理者も出席していることで反映できている。</li> <li>・管理者は職員の意見や提案を、いつでも話せる関係を意識しており、反映を心がけている。</li> </ul>	<p>日々の雑談や管理者の声掛けにより職員の意見や提案を聞いている。年に1回管理者との個別面談が行われ、職員が何となく思っていたり疑問だったことが深掘りできる場となっている。レク委員会で利用者の楽しみができればいいなという職員の雑談の中から2階のフロアを喫茶店風にすることが実現した。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員が向上心を持ち働ける環境を作れるよう努めている。</li> <li>「職場レクリエーション」という福利厚生制度を使いコミュニケーションの場を作っている。</li> <li>職員の家庭の事情などを把握したシフトを作成する等にて、働きやすい環境の整備に努めている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人研修・チューター制度を取り入れてている。</li> <li>職員の力量に適した研修を、タイミングに合わせて受けてもらったり、個性が活かせる様な役割を担ってもらい、自信をもって仕事に携われるような環境にしている。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のグループホームが集まる会議が年間3回ある。</li> <li>その会議に参加することから、サービス向上につながることも多く、交流を大切にしている。</li> <li>他の事業所主催の研修を、職員育成に活用させてもらっている。</li> <li>今年度が開催が少なかったが、最近Zoomでの研修もあり参加している。</li> </ul>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族からの情報や本人の何気ない言動を、見逃さないように心がけて、その方らしい生活が継続できるように努めている。</li> <li>不安げな様子が感じられるときは、話しやすい言葉かけを行い、思いを受けとめている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学の問い合わせ時より傾聴する姿勢を大切に、ひとつひとつ丁寧な関わりを持ち、誠心誠意応えられるように心がけている。</li> <li>わかりにくい様子が伺える時は、事例などを交えて説明することで、親しみやすい関係を築いている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な会話を交わす中で、家族の困っていることをゆっくり丁寧に傾聴して、要望を見極めている。</li> <li>・その要望に対して考えられるサービスの説明を行っている。</li> </ul>		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は介護する側という思いではなく、共に暮らすという立ち位置で、ご本人の出来る事はお話ししながら支えていけるような関りを大切にしている。</li> <li>・洗濯たたみなどを手伝って頂いた時なども、感謝の言葉を伝えている。</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面会の自粛をお願いしていることもあり、職員がご家族からお手紙や差し入れを、預かり渡すようにしている。</li> <li>・お渡しする時のご本人の喜んでおられた様子などを、次回の面会時に伝えることで、直接会う以上の絆を気付く事ができている。</li> </ul>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご近所であった方や友人からの電話はいつでもお話ができるようにしている。</li> <li>・友人と年賀状や手紙の交換を継続されている方もいる。</li> <li>・在宅時のボランティアの方が訪ねて来られることもあり、馴染みの関係が途切れないようにしている。</li> </ul>	<p>利用者が入居前に関わっていたボランティアの訪問や、昔の友人を迎えるおもてなし(お茶入れ)のサポート、自分が住んでいた家に行きたいという要望に職員が連れて行くなど一人ひとりに寄り添った支援に努めている。2階フロアを喫茶店風にして1階と2階のユニット間で交流している。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2階フロアを喫茶店風に模様替えをして1階の入居者を招いたり、合同でお誕生会を行う事で、ユニットを超えた関りが深まり、馴染みの関係ができている。</li> <li>・日常的に利用者同士での関りも多くみられ、ご家族の事や若い日の話など談笑されている。</li> </ul>		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームで看取りをされた利用者の家族がお手紙を下さったり、お電話などで近況を交換させて頂いたり、サービス終了後も馴染みの関係を保つことができている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員は一人ひとりの思いや言葉にできていない願いを、何気ない会話や草草から見つけていけるように、心がけている。 ・言動の中に込められた思いを、カンファレンスで話し合い、各職員の様々な視点から本人本位な関わりを見出せるように努めている。	センター方式の24時間シートを活用している。職員一人ひとりが気付いたことや対応について等情報を持ち寄り話し合い、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族に記入してもらう「基本シート」より生活歴や趣味などの情報を活かして、その方らしい暮らしの継続に努めている。 ・ご本人との何気ない会話を交わすことから見出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々生活しておられる様子を、センター方式D-4シート(記録用紙)に記録して、気持ちの浮き沈みや体調などを職員間で把握して共有している。 ・体調管理に関しては、療養手帳への記録をもとに主治医に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・お一人おひとりのモニタリングはチームで行うユニット会議を、月に1度行っている。この会議の中で一人ひとりの思いや課題の抽出を行っている。 ・会議で話し合った内容をもとにアセスメントを行い介護計画を作成している。	家族カンファレンスで収集した家族の意向と本人の意向をすり合わせて介護計画作成に活かしている。思いの表現が困難な方には職員が見守ってセンター方式の24時間シートを活用して共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を介護計画に基づき、センター方式D-4シートに記録して職員間で共有している。この記録の中のケアの実践やその結果を、新たな介護計画の見直しに活かしている。 ・その日の体調や把握の必要な事柄を、「申し送り表」で記録すると共に勤務交代時には、口頭の申し送りで、職員間の情報共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・法人内の居宅支援事業所や訪問介護などから得られる情報を支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日の決まった時間に、ホームの前に移動スーパーをお願いすることで、近隣の方のお買い物場を設けて、利用者とのコミュニケーションの輪が広がるようにしている。</li> <li>・近隣で第3土曜日に開催されている乙訓マルシェで、お芋などを購入してスイートポテトを作ったり、買って来たお花を玄関に飾ったり日々の楽しむ事ができている。</li> <li>・今年はコロナ感染予防のために控えているが、近隣の保育園との交流があり、イベント参加などの関りが持っている。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居前のかかりつけ医の継続を基本とし、家族の意向に添った医療連携が取れている。</li> <li>・歯科に関しては連携医に随時相談や往診をお願いできる体制ができている。</li> <li>・「在宅療養手帳」を活用して、かかりつけ医と連携を図れる体制が整っている。</li> </ul>	入居前のかかりつけ医を希望されても往診不可の場合も多く、事業所の協力医に変更される場合も多い。受診時には乙訓医師会独自の「在宅療養手帳」を活用している。歯科については近隣の歯科医に気軽に相談ができる体制ができてはいるが、歯科衛生士の定時訪問に取組みたいと考えているがまだ至っていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤看護師と情報を共有した連携が取れている。</li> <li>・訪問時には、様々な相談ができることで健康管理ができる体制にある。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の意向をもとに入退院時には、かかりつけ医と医療機関の連携により敏速な対応ができている。</li> <li>・入院時は「介護サマリー」を作成することで情報提供を行っている。</li> <li>・退院支援に関しては、医療的処置が不要になった状況で、家族の意向確認を行い、病院との連携を図りながら退院支援を行っている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居時には重度化の指針の説明をして同意をとっている。</li> <li>終末期の意向を何気ない会話を交わしながら、話し合うように心がけている。</li> <li>面会時や利用者の体調に変化が見受けられる時には、早めに状況と可能性をお話するように心がけている。</li> <li>看取りケアを行う時は、かかりつけ医と家族とのカンファレンスを行い、「看取り介護についての同意書」を作成している。</li> <li>ご家族の意向にてかかりつけ医の指示のもと、訪問看護との医療連携を行い、看取りを行うケースもあった。</li> </ul>	<p>入居時「重度化した場合の対応に関わる指針」の文書を以て本人・家族に説明を行い同意書を取っている。以後状態の変化等必要に応じて家族と話し合い、その都度意志確認を行っている。医師による「看取り」の診断後は、カンファレンスで医師から家族へ説明がありプランを立て直している。意向については、必要に応じて家族が直接相談できるようにしている。医療、看護、介護が連携を密に取り、本人・家族を支え良い看取りとなるよう取り組んでいる。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部研修にて緊急時の対応の研修を行い備えている。</li> <li>緊急時の連絡網を作成している。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署に年2回依頼して、地震や地震後の出火を想定した総合火災避難訓練と夜間想定避難訓練を行っている。近隣には前日に避難訓練実施の案内をポストに入れさせて頂いて協力をお願いしている。</li> <li>近隣に住む職員や支店体制などの緊急時の体制が整っている。</li> </ul>	<p>消防署立会いの下、毎年2回の避難訓練を入居者と共に実施している。火災、地震、地震後の出火を想定した総合火災避難訓練と夜間想定避難訓練となっている。地域の協力体制については訓練実施の案内を近隣に前日にポスティングしているが、具体的な協力依頼はしていない。備蓄は同市内にある支店と協力している。</p>	<p>避難訓練の際の近隣への積極的な協力要請が望まれます。昼夜を問わず職員だけの避難は限界があり地域住民の協力が必要となります。運営推進会議等で話し合ってみてはいかがでしょうか。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の人格や尊厳が損なわれないように、配慮した言葉かけが行えるように心がけている。</li> <li>研修等を重ねた学びをもとに、職員同士が不適切なケアを行っていないかを確認できる関係が持てるようにしている。</li> </ul>	<p>「言葉」の問題を現時点での課題として重点的に考えている。「人格の尊重」「プライバシー保護」を基本に「不適切ケア」等についての研修を重ね、職員間で気付けるよう意識している。日常業務で気付いたことをそれぞれ持ち寄って振り返り検討する仕組みがある。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>お一人おひとりに伝わりやすい言葉を選び、自己決定できるような声かけをしている。</li> <li>自分の思いを言葉にすることが難しくなってきたりしている方へも、何気ない行動や表情から思いがくみ取れるように日々努めている。</li> </ul>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食後に同じテーブルの方とお話をしたり、新聞や愛読書を読んだり、眠そうな様子がある時には午睡の声をかけて案内したりと、その方らしい暮らしや習慣を大切にしている。 ・入浴なども体調や気分を優先したり、散歩や外気浴などその方のその日の気分を優先した支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その日の気分や服を選んだり、着替えたりとおしゃれを楽しんでおられる方もいる。 ・お化粧をされている方もおられ、その方らしい身だしなみを続けておられる。 ・毎月1度理容師さんに来て頂き、髪染め・パーマ、お顔そりなど入居者の皆さんの希望に添って行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎月入居者お一人おひとりのお誕生日を「お好み食」の日としてその方の好きなメニューにするようにしている。 ・皆で焼きそばを作ったり、焼肉パーティーをしたり、おやつに五平餅やどら焼きなどを作ってもらったり、皆さんでわいわいと作りながら食べる時間を大切にしている。	日々の生活の中でみんなで楽しく食事することに重きを置いている。それが理念の実践につながると考えて様々な工夫をしている。行事食や季節を感じる流しソーメン、紅葉狩りのお弁当、定期的なおやつレク等。また誕生日には「お好み食」として本人が希望する好きなもの、食べたいものをメニューにしている。外食にも職員が付き添って支援している。家庭菜園で収穫した野菜を調理することも楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の食事量を「生活経過用表」に記録して、その方の健康管理に反映できるように努めている。 ・ヤクルトなど腸内環境を整えるための自宅で行われていた生活習慣を取り入れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・その方の口腔状況に合わせて口腔ケアを行っている。 ・ご本人で行える方には、声をかけて行ってもらい、お手伝いの必要な方や誤嚥の可能性のあらわれる方は、歯ブラシやスポンジなどを使用して介助することで、清潔を保つようにしている。 ・夜間は義歯を洗浄剤につけて清潔の維持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた様子や表情などを職員間で共有しながら、食事前などを目途に声をかけたり案内をしている。</li> <li>・排泄チェック表を活用することで、排泄パターンや見つけることができている。</li> </ul>	<p>できるかぎりトイレでの排泄を目指しているが多くの入居者がリハビリパンツを使用し、安心のためにパットを使用している人もいる。トイレまで行けても排泄までできる人は少ないため介助が必要となっている。失禁した場合はできるだけさりげなくを心がけている。排泄のチェックは、フロアによってケース記録で確認したり、職員が独自で作成したものを活用しているが、わかりにくいとの声もある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お一人おひとりの生活習慣や腸内環境を理解しながら、飲むヨーグルトやヤクルトを飲んでもらい、無理なく排泄できるように心がけている。</li> <li>・水分摂取の声をかけたり、体操などを行ってもらえるようにすることで、日々の快便につながるよう努めている。</li> <li>・排便の間隔などを主治医と共有して、緩下剤などの服用をしてもらう事で、無排便が続かないような支援を行っている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のその時の体調や気持ちを考慮した声掛けを行っている。</li> <li>・お湯の温度や入浴剤などその方の好みに合わせた支援を行っている。</li> <li>・浴槽に入ることが困難になった方は、足浴をしたり肩などにお湯をかけたりすることで、身体が温めるように工夫をしている。</li> </ul>	<p>週3回の入浴の中で利用者の希望に添って午前午後を選択してもらっている。その際にはタイミングを見計らって声掛けしている。特に強い入浴拒否はない。希望に応じて同性介助となっている。1階と2階では風呂場のシステムが違い、入居者の状態によってどちらを使用するかを決めることもある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後などうつらうつらされている様子などが見られる時には、お部屋で午睡ができるような声をかけて案内することで、休息をとってもらっている。</li> <li>・就寝時に安心して休んで頂けるように、エアコンで温度調節をしたり、加湿器や濡れタオルなどを用意することで乾燥しないように配慮している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お薬に関しては、ご家族と契約されている薬局で処方してもらっている。</li> <li>・その薬局にて分包されたお薬を決まった時間に服用して頂く支援を行っている。</li> <li>・職員は薬局からの説明書を処方時や変更のはっきりと確認するようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2階フロアを喫茶店風に模様替えを行い、2階入居者が、コーヒーやパフェの注文を受けるといったような、役割をってもらう事に取組んでいる。</li> <li>・毎週水曜日には「とくし丸」という移動スーパーが自ホームの前に来ており、チョコレートやクッキーなど自分の好みのお菓子を購入することができる。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜や菜の花のお花見や秋の紅葉など季節に応じて、ドライブなどに出かけたり、季節を感じて頂けるような計画を立てている。</li> <li>・今年度は外出の自粛の影響もあり、ご家族とのお出かけも控えているが、基本的にはいつでもお出かけを楽しんで頂けるようにしている。</li> <li>・お天気の良い日には皆さんの体調等を確認しながら、日々に散歩に出かけている。</li> </ul>	<p>コロナ禍において外出の自粛規制があるものの体力の低下や精神的な不調等が懸念されたこともあって日常的な散歩はできるだけ入居者の希望に添う形で継続している。入居者の状態と意向に配慮し散歩コースを設定して定期的実施している。季節によって、近場に桜やつつじ等見物に、1人～3人までの少人数でこまめに行くようにしていることが好評となっている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お買い物支援や移動スーパーで好きなものを購入して頂けるようにしている。</li> <li>・お財布を持っている方もいる。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話を持っている方もあり、自身でご家族やご友人と自由にお話されている。</li> <li>・ご家族やご友人からの電話がかかってくることもあり、馴染みの関係を継続されている。</li> <li>・年賀状を作成して家族に送ったり、会えない時間が多くなったこともあり、手紙やはがきのやり取りが多くなっている。</li> <li>・ライン電話ができることをご案内させて頂き、希望のあったご家族とビデオ通話もを行っている。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんが過ごしやすいように、利用者の身体状況などに合わせた配置の工夫をしている。</li> <li>・季節を感じて頂けるような作品を展示している。</li> <li>・換気を行いながら、室温や湿度も心地よく過ごして頂けるようにしている。</li> </ul>	<p>共用部分は、ゆったりと広くて明るく、テーブルや椅子がゆとりをもって配置されている。壁には季節に合わせた利用者の作品が飾られ季節感を醸し出している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を摂る場所と、ゆったりとテレビなどを見る事ができるソファ席の空間を作っている。</li> <li>・1階・2階と自由に行き来できることで、気の合う方とお茶を飲んだり、談笑する事ができている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みの愛用されていた机などを持って来られている。</li> <li>・居室でお菓子をつまんだり、その方らしい時間を過ごされている。</li> <li>・居室はご家族の写真などが飾れていたり、お一人おひとりの居場所となっている。</li> </ul>	明るく清潔感のある自室では、馴染みの愛用品が持ち込まれ、居場所となるよう、居心地のよい時間が過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手押し車を使用して居室とリビングを、自由に行き来できるように、配慮して工夫している。</li> <li>・居室やトイレなど表札などを、設置することでわかりやすく案内している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や社会とのかかわりを意識した理念を作り、共有する為に朝礼で復唱する事で業務に反映していけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にお住まいの方の紹介による行事や移動スーパーでの買い物なども取り入れて交流の機会を持てるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の方が気軽に相談のできる環境を作り、地域の人々の理解を深めることのできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの日常生活の資料をもとに説明を加える事で、現状を理解しやすいようにしている。意見などを聞き入れサービス向上につなげていけるように力を入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてホームの日常を理解して頂くことで、良い協力関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修をすることで職員全員が禁止行為を理解し、業務に活かせる様にしている。基本的に施錠は行っていないので、自由に出入りができる状態である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為の理解をしているが、毎年研修を行う事で理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の仕組みや利用しているご入居者についてユニット会議等で話題として取り上げて説明をする事で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談の機会を設け、契約後であっても疑問などがあれば、説明を行い理解・納得ができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見や要望がある時はカンファレンスを行うことで、そこで得られた意見を運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行っている。年に一度は上長との個別の面談の機会を設け意見を聞き、それを運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別のヒヤリングをすることで、職員全体の現状を理解できる機会を作り、やりがいのある職場環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務状況や個別ヒヤリングからケアの力量を把握し、職員のレベルに合った外部の研修も積極的に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会での交流を通じて学んだこと感じた事をサービスの向上に活かせるように取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設の見学、面談する事で不安等を傾聴し、ご本人の要望を理解したうえで、良い信頼関係づくりをしていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在抱えている課題等は時間をかけて、カンファレンスを行い、互いに協力できる良い関係を築けるように、何度でもカンファレンスを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活に必要なベットや歩行器等の業者の紹介や、かかりつけ医など要望に応じて手配している。要望により有償のマッサージ等のサービスの利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本情報シートに書かれている生活歴、趣味、嗜好、思想等を理解し、日々のコミュニケーションで得られた情報をいかした関わりを持つことで良い関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話での連絡時等に日常生活の情報共有を行い、必要に応じて家族カンファレンスを行って、共に支えていける良い関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等が気軽にコミュニケーションができるように配慮している。馴染みの場所の関係が継続できるように家族にも協力していただき支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係を気付けるように、各個人の個性や尊厳を尊重して、平等性に欠けない支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も関係性を大切にしている。希望があれば相談や支援も随時受け付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族に記入していただいたアセスメントシートを基にして、生活歴などの把握に努めている。入居後は追記する形で現在の希望や意向の理解を深めていけるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、親戚、かかりつけ医等による情報収集を行い、これまでの生活を把握することで基本シートの作成にいかしていけるように最善を尽くしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者ごとに24時間シートを作成し、日々の生活、健康状態、精神状態を記入している。そこで得られた情報から現状の把握に最善を尽くしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族カンファレンスやユニット会議等によりケア者の課題を話し合う事で、意見を反映した介護計画とモニタリングを作成できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は24時間シートや申し送り表に記録する事を徹底している。それらの記録を情報共有することで介護計画の見直しの際には活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に沿えるように、サービスの紹介や新規サービスなど必要に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練、消火訓練の実施をしている。自治会主催の催し物にも参加している。ボランティアの導入には積極的に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の意見を尊重して受診、往診を選択されている。かかりつけ医と入居者の状態の共有に力を入れることで、良い関係を築きながら適切な医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が業務に携わっており、日常の状態の情報共有をすることで、適切な受診や看護が受けられる状態を作れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携はかかりつけ医を通して24時間迅速に行えるようにしている。入院時にご家族や入院先の相談員との協力する事で状況を把握し今後の方針について話し合いをする際に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に重度化した場合を想定した説明をしている。事前に重度化、終末期の方針については話し合いをしている。話し合った内容をもとに地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に消防署による避難訓練や事故時の初期対応などの指導を受けており、実践時に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による避難訓練の指導を受けている。事前に避難場所などの把握につとめている。災害時には近場に住む職員が迅速に対応できるように、事前に話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員は基本情報を把握し人格を尊重した言葉かけを行っている。プライバシーに関わる事柄は、他者に聞かれないように室内にて話をするなど配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いに寄り添い、話を傾聴することで希望をくみ取ることに努めている。自己決定しやすい環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事もご入居者のペースを一番に心がけ、快適に過ごせるように改善を重ねながら支援している。どのような日を過ごしたいかの希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回は訪問理美容が設定されている。沢山ある衣類の中から好みの服と一緒に選び着る事で、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にご入居者と一緒におやつを手作りし、好みのトッピングをすることで食事を楽しめる様に工夫をしている。日常の会話から好み等を把握し誕生日の月には、その人の好みの食事を提供できる日を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の摂取量、排便、排尿を日々記録し日常の健康管理の目安としている。個別に必要なに応じて、夜間のトイレ時には水分を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。歯ブラシを上手に動かすことの難しい方などは、御本人の口腔ケア後に仕上磨きを行っている。夜間は義歯を洗浄剤につけ清潔を維持する支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄回数の記録をとり、排泄リズムを把握し体調管理をすることで目安としている。把握した排泄リズムからトイレの声掛けが必要な方は時間を決めて声掛けを行い自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を日課としている。十分な水分の提供も心掛けている。排便時にコールなどでもんでもらい便の確認をしたり、必要のある方は排便時に付き添うことで、排泄状況を把握して、主治医につなげ緩下剤などの服用の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の体調や予定にも配慮しつつ週に3回の入浴をしている。個別に希望に合わせて午前や午後入浴を行っている。入浴剤を使用する事で、お湯の色や香りを楽しみながら入浴されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に御自身の生活習慣で過ごしていただいている。日中の休息も自由にとって頂いている。夜間に安心して眠れるように、その方に適した日中の活動量を目指す支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストにより内服薬の目的や副作用等周知を徹底している。変更時には申し送りノートに記入し、常に情報の共有に努めている。状態の変化等は24時間シートや申し送り表に記録する事で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本情報を基に、ご本人の力を活かし楽しみながらできる役割や、気分転換になるような環境を作り心を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各入居者に合わせた散歩コースを設定し定期的に外出の機会を設けている。年間を通して季節感を楽しんで頂ける外レクを設けている。家族と協力し一緒に外レクに参加できる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一度、移動スーパーが施設の前に来るのでその際に好みの物を購入するなど、自身の希望に応じて使えるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況によっては代行でご家族に連絡を取る場合もある。手紙や年賀状等のやり取りを通じて友好関係を維持できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節をテーマにしたディスプレイを入居者も一緒に製作して壁に貼り、四季を感じ取れる様にしている。室内の光量を時間に合わせ調節し、室温と湿度の管理をする事で心地よく過ごすことのできる環境作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルーム、食堂は好きな席に座って頂けるようにしている。気の合う利用者と自由に会話を楽しんで頂けるような空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は出来るだけ馴染みの物を持ち込んでもらう事で、安心して過ごせる居心地の良い環境作りを心掛けている。必要な家具などは本人の好みに合った物を選ぶようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや扉などは利用しやすい物を使用している。トイレや浴室に使用状況が外から分かるように掛札を作成したり、居室には表札を掛ける等して、自身で認識し易い工夫をしている。		